

問題



1. 親の欲目
2. 後生畏るべし
3. 老いては子に従え
4. 可愛い子には旅をさせろ
5. 親の因果が子に報う



1. 自己紹介
2. 四十にして惑わず
3. 親しき仲にも礼儀あり
4. 尻を捲る
5. 名刺で仕事をするな

この漫画のタイトルは1〜5のうちのだれだと思えますか？

○ 印を付けて下さい





めいししし 名刺で仕事もまじまじ な

寺山修司です



これは、ことわざと言ふより、ジャーナリストとして長い経験を持つ扇谷正造氏の残した名言である。
「寺山修司です」これも名言である。

「あなたの職業は何ですか？」と訊かれて、彼はこう答えたというエピソードが残っている。
確かに寺山修司という人は俳人であり、歌

人であり、小説家で、シナリオライター、劇団の主宰者にして、映画製作者、馬主であると同時に・・・まさに、マルチ人間の典型だった。いちいち説明するのも面倒だから、全部ひっくるめて「寺山修司というものです」とかわすところが、この人らしかった。
どこそこの役員だ、参事だ、顧問だ、相談役だと、名刺一杯に肩書きを羅列してふんり返っている人もいるけれど、所詮その人の正体なんてもんは肩書きでは判断できない、その業績が証明するもの。

経営の危機に瀕した業界では、老舗の大手出版社がリストラを開始し、退職金に割り増しを上乗せして、四十才以上の社員を対象に希望退職者を募った。泥舟と化した会社に残って沈没するか、新天地を求めて舟から下りるかを迫られた社員たちの動揺は隠せない。
肩書きに頼らないで仕事をしてきた人間は一人（フリー）になってもさして恐くない。
一方、肩書きだけで仕事をしてきたものは、背負ってきた看板がなくなると、裸同然となってしまう。今まで懇意にしていたはずの作家は手の平を返したように冷たくなる。
きみの為にだったら、ひと肌もふた肌も脱ぐよと言ってくれるのは、人間的付き合いのある場合である。
名刺の付き合いでなく。





後生 せいありて 畏るべし

孔子は泣いた



むずかしい話は苦手だが、孔子とかいう人が「論語」の中に「焉（いづく）んぞ来者の今に如（し）かざるを知らんや」と残してい

る。つまり、「若い人はおそろしい。これからの人が、今われわれに及ばないということだ、

どうしてわかるるか」と重ねてつまり、「自分よりあとから生まれて来るものは、年が若く気力もあり、将来への可能性を持っているから、一生懸命学問に励んだら、その進歩は畏敬すべきものである」と。
面倒をみたつもりの部下に裏切られて、飼い犬に手を噛まれたと喚んでいる上司を見かけるが、飼い犬の成長に気がつかなかっただけのこと。
女性の場合、毛虫から蝶に脱皮するごとく、みるみる美しくなる時期があるように、成長期の若者は目覚ましい細胞分裂を遂げる時期がある。遠い昔、私にも自分の中で何か音が立てて膨らんでいくのを感じたことがあった。
忘れかけていたそれを思い出させてくれたのは、我が息子が高校に入った年だった。勉強とは縁を切ったかのように夜中までギターをかき鳴らしているのに堪忍袋の緒が切れて思わず息子の胸ぐらを掴んで頬を張ったのを避けられて、背負い投げを喰らって腰が立たなくなつた時だった。
言うまでもなく「後生」は、後から生まれたもの（来者とも）。「年少の者は努力次第で将来どのような人物に成長するかわからないので侮ることができない」と孔子は宣っているのである。

